

思索と言語

言葉を科学する：人間の再発見

奥 聡

Day 04: 「単語」の再発見 (2)

1. Pre-class Work 04

(B)

(C) 次のうち先週の授業で、論じたことに当てはまらないものを 2つ選び、○をつけなさい

2. 頭の中の辞書は単語の生産工場

(1) Warming up

a. 「留守番をする電話」は、しりとりゲームで認めてよいか？ Yes / No

b. 「留守番電話」は、しりとりゲームで認めてよいか？ Yes / No

(2) ある条件を満たす知っている単語（名詞）をどれだけ思い出せるかを競い合うゲーム（「あ」で始まる名詞をどれだけ知っているか、「る」で始まる単語をどれだけ知っているか）

個人の頭の中の単語数の有限性がゲームの鍵

- (3) 「留守番をする電話」はもはや「単語」とはいえない言語単位：句 (phrase)
「句」がしりとりで認められないのは、素材は有限でも句はいくらでも作れる
- a. 留守番をする人
 - b. 留守番をする人が住んでいる家
 - c. 留守番をする人が住んでいる家においてある漬物
 - d. 留守番をする人が住んでいる家においてある漬物を食べたネズミ
- =>知っている単語の有限性が条件である「しりとりゲームの真髄」に反する
- (4) 「留守番電話会社」は複合語 (compounds)：複数の単語 (自由形態素) からなる大きな「単語」(*大きな塊だが、そのまとまりを「単語」と呼んでよさそう)
「複合語」も素材は有限でもいくらでも作れる
- a. 留守番電話
 - b. 留守番電話サービス
 - c. 留守番電話サービス登録
 - d. 留守番電話サービス登録キャンペーン促進委員会 (原理的には無限)
- =>知っている単語の有限性が条件である「しりとりゲームの真髄」に反する
- (5) 実例：「三宅島火山被害復興委員会再会式」
- 「しりとり」を超えて
- (6) 私たちの言語能力には、有限の素材 (知っている単語、形態素) を用いて、無限の表現を生み出す力が備わっている
- (7) なぜ有限の素材で無限の表現を作り出すことができるのか
Chomsky はこの問題を「フンボルトの問題」と呼んだ
- (8) 人間の言語能力を解明しようとする言語理論は、「フンボルトの問題」に対する解答を用意しようとするものでなければならない
- (9) 「留守番電話」vs「留守番をする電話」
複合語 compound (大きな単語の一種) と句 phrase が異なる単位であること無意識のうちに知っている。複合語を単語らしくしているものは何? =>第4節

3. 主要部位置パラメータ (head-position parameter)

- (10) 人間の言語能力・頭の中の母語の文法はある点ではとても柔軟
無限の言語表現を作り出し・理解する力 (いままで聞いたことがなくても)
- (11) 一方、私たちの母語の文法は大変「頑固」で「融通が利かない」
「電話」 + 「携帯」
- a. 電話携帯 <=>なぜこれが、皆が持ち歩いている電話のことをさせない?
 - b. 携帯電話

- (12) a. mobile phone
b. *phone mobile <= 「携帯電話」という意味では使えない
- (13) 複合語主要部位置規則
複合語[A + B]において、全体は A の一種ではなく、B の一種となる
a. 全体の部分を決めている B を主要部(head)という
b. 残りの部分 A を修飾部(modifier)という
- (14) 日本語（英語も）の複合語では一般に後ろの要素が主要部
主要部末端型 (head-final type) 言語
a. 少年野球 vs. 野球少年
b. 学生登録 vs. 登録学生
c. 蜂蜜 vs. 蜜蜂
- (15) これは慣れや習慣ではなく、厳しい規則。どんなに文脈を整えても逆の意味には使えない。自分の意思や話者の意図でそのつど勝手に変更できない。
a. 昨日、{野球少年・少年野球} 3 人に会った
b. 牛乳に {蜜蜂・蜂蜜} を溶かして、飲んだ
- 自分の日本語に知識を客体化しよう
- (16) 主要部末端型はあたりまえ？
- (17) もし、世界の言語全て（ほとんど）で、複合語の主要部が後ろの要素であれば、人間の言語能力の中に、何かそれを必然とする特徴がると考えられる。
一方、もし、日本語・英語の主要部末端が単に偶然なら、「携帯電話」のことを、「電話＋携帯」という語順で言う言語があっても原理的におかしくない。（複合語の主要部は後ろの要素でなければならないという必然的な理由はない。
- (18) 携帯電話のことを「電話＋携帯」という語順で言う言語（主要部「先端」型言語）
タイ語、ベトナム語、ヘブライ語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語、イタリア語、etc.
- 言語獲得中の子どもは自分の言語が主要部末端型か主要部先端型かを学ぶ必要あり。
そして…
- (19) 実例に触れているだけ、「主要部が後ろに来ることができる」ことを学ぶだけでなく、「主要部が前に来ることはできない」という制限規則も学んでしまう。なぜ？
- (20) 仮説：主要部位置パラメータ（生得的言語知識）
a. 実例を聞いて複合語の主要部の位置が前か後ろかを決めなさい
b. どちらかに決めたらその逆の値はない
- (21) (20)は言語獲得の論理的問題（プラトンの問題）に対する有効な答え方の 1 つ
- (22) 人間の言語知識・母語の文法能力が、ある面では大変「柔軟」である一方、ある面では大変「頑固で融通が利かない」という事実がうまく説明できる。

4. 単語らしさのプロソディー (イントネーション)

(23) Class Work04-1

- a. 次の単語を単独で発音した時のイントネーションを確認
海外、学生、新聞、山形、研修
以下の下線部に入れて確認するとやりやすい
「おもしろいのは _____ です」
- b. 上記(23a)をしっかり確認した後で、次の句の中での個々の単語のイントネーション、複合語の中での個々の単語のイントネーションがどのようなかをペアで確認しあいなさい。

	<u>句</u>	<u>複合語</u>
(i)	海外での研修	海外研修
(ii)	山形の新聞	山形新聞
(iii)	研修に来ている学生	研修学生

(24) ○○とすることで、ひとまとまりの「単語らしさ」を出そうとしている

(25) 修飾部が強く、主要部が弱くなっている点が特徴的
個々の複合語のイントネーション (抑揚) をその都度いちいち覚えているわけではない。新しい複合語もきちんとパターンに従って発音する (その都度ランダムに無秩序に発音しているわけではない)。「山形新聞」「トンネル建設会社」

(26) 複合語が[修飾部 + 主要部]という主要部末端型の複合語に共通かもしれない。

英語の例	<u>句</u>	<u>複合語</u>
a.	BLACK BOARD (黒い板)	BLACK board (黒板)
b.	HIGH CHAIR (高い椅子)	HIGH chair (レストランなどにある 子供用の高椅子)
c.	the WHITE HOUSE (白い家)	the WHITE house (米大統領官邸)

(27) 仮説: どの言語にも、複合語を句とは区別して、ひとまとまりの単語らしいく発音しようとする仕組みが備わっている。

参考文献: 窪田晴夫(2002)『新語はこうして作られる』(岩波書店)、窪田晴夫(2001)「語順と音韻構造—事実と仮説—」『文法と音声 III』 pp.107-140 (くろしお出版)

* 次回の最初に pre-class work05 を行います。今日の講義内容の確認問題を一部含むので、しっかり復習しておいて。

Homework Assignment 04

* WebTube にログインして、「言葉を科学する」のクラスに入り、「04-HW04 (言葉科学)」を期限までにやりなさい。(水曜日午後 9 時)<https://webtube.c11.hokudai.ac.jp/>